



福島県各地に、
全国から様々な形の応援が寄せられています！
そんな頼れる皆さんからのメッセージをお伝えします。

福島へのラブレター



西川
正
さん

NPO法人ハンズオン・埼玉
常務理事



栗原
穂子
さん

NPO法人ぼらんたす(山形)
事務局長

福島に住む娘の縁で、10年来福島は大事な地となっています。携帯の着メロの猪苗代湖の『I love you & I need you ふくしま』が鳴る度に福島の事を思います。5月の連休には、ボラバスで全国から駆けつけたボランティアの方達と福島の方達と共に活動させていただきました。今後も福島の方達といろいろな場面で一緒にできたらと思っています。

いつでもどこでも福島応援団です！

リレーエッセイ

山の力、自然の力。

登山家 田部井 淳子



3月11日から早半年近くなる今も、福島県は復興のきざしも先の予定も見えない状態が続き心が痛む毎日です。

私達山好きの者にも出来ることは何か、と考えた時、美しい自然にあふれる福島の山に、一人でも多くの人に行ってもらうことだ、と思いました。山に登り、地域の人と話し、土地のものを食べ、お土産を買って帰ってくることも応援の一つだと思ったからです。

また、避難生活を送られている方達と自然の中を歩き、少しでも気分転換して元気になってもらえたという思いもあり、震災後、福島の避難所を回っていた衆議院議員の長島一由さんの紹介で、芦ノ牧温泉観光協会の協力を得て、芦ノ牧温泉に避難されている方達と6月13日に裏磐梯五色沼探勝路を歩きました。7月11日には、福島民友新聞社を通して紹介していただいた土湯温泉観光協会などご協力で安達太良連峰の一つ鬼面山に登りました。登山靴やリュックなど予備も用意しました。両日とも天気に恵まれ、美しい緑したたる森の中を歩き、おにぎりを食べ、いろんなお話をすすることができました。

「まさか避難生活中にハイキングするなんて考えたこともなかった、家もなにも流されてしまったけどそれはもう過去のこと、これからのことを考えなくては...」という前向きなお話に、私たちのほうが励まされた想いでした。

「本当に元気が出た、すごく気分転換になった、くよくよしてもしょうがないね」と帰り際には「本当にありがとう」と私に携帯用のストラップをお土産に買ってくださり、びっくりです。

猪苗代沼尻温泉のロッジを私も経営していますが、温泉パイプが破損して2カ月間はまったく休業しました。28人乗りのバスをもっているので、ハイキングのあとは、夫が皆さんを避難先までバスで送って行きましたが、帰りには参加された方達から「これ飲んで」とオロナミンC1箱をいただき、恐縮してしまいました。最初にお会いした時と、山を歩き終わって帰られる時の顔つきや表情はまったく違っていて、山の持つ力、自然の持つ力のすごさを感じることができ、このハイキングは今後も続けてゆきたいと思っています。首都圏の人達を募って、東北応援山行を10月に西吾妻山で計画しています。8月21日から3泊4日で被災された3家族をICHI石井スポーツがスポンサーとなり、私と富山県の立山を登る計画が実行されました。これは10月8日19時よりBS日テレで放映されます。私の所属する日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト(HAT-J)の中に東北応援プロジェクトができ、ハイキング、登山をこれからも実行していくので、今後この計画にご賛同いただけましたらぜひ連絡ください。美しい福島の自然を歩き、共に元気になりませんか。

ボランティアの皆さんへ

7月28日に発生した豪雨災害。
只見町ボランティアセンターで
ボランティア受付を担当していた
渡部綾さんに思いを伺いました。



▲前列中央が渡部さん

高校進学をきっかけに10年ほど只見を離れていたという渡部さん。神奈川県で大学病院の看護師として働いていましたが、「誰がどこの誰だかわかる地元に戻りたいなあ」との思いが強くなり6月末に退職、少しのんびりしていた矢先に今回の水害が起きました。

「泥出しのお手伝いでもしよう」と災害ボランティアセンターを訪ねると、スタッフは友達のお父さんや近所の方など、大体みんな知っている顔。気が付けばボランティア受付を担当することになっていたそうです。

只見町では3カ所で落橋、車両通行止めも相次ぎました。電車も運休しています。そんな交通アクセスが悪い中で

も訪れてくるボランティアの多さに驚いたと言います。

「震災では世話をになったから」と南相馬から夜中に車を走らせて駆けつけてくれた方。「なんとか雪が降る前にきれいにしてあげたい」と頑張ってくれるボランティアがいました。また、活動現場で、「来てくれるのを待ってたんだあ」と目を潤ませる方に会って、「ボランティアは泥出しをするだけでなく、被災した方の気持ちの支えにもなっているんだなあ。人ってすぐたるものじゃない、人の力ってすごいんだよ」と話してくれたボランティアがいたそうですが、渡部さんも心からそう思われたそうです。

こんにちは、生活支援相談員です！



統括生活支援相談員
加藤 美智子

畠のひまわりの花も例年とは違って見えます。震災後、各地からさまざまな援助をいただきながら生活支援相談員を行っています。相談員の仕事は一人ひとりのニーズを把握して、人と人をつないでいく役割と考えています。“笑顔”を忘れずに生まれ育った大好きな福島のために少しでも力になれるよう努力していると思います。



統括生活支援相談員
酒井 澄江

3月の大震災から半年が経過しました。避難されている方々の身体的・精神的疲労や慣れない地域で不安を抱えた中での生活は、本当に大変なことであろうと思います。少しでも皆さんの生活復興に繋げられるよう「縁の下の力持ち」の存在としてお互いに支えあいながら、地域のコミュニケーションを大切に、そして「心と心の絆」を忘れないように頑張りたいと思います。

編集後記

どんな災害で被災されても、これまでの地域での住まいや暮らしを大事に持ち続けたい、そんな地域の方々の絆を今回の集中豪雨で支援に入り強く感じました。頑張れ只見町・金山町、一日も早い復興を願っています。(佐藤勢津子)

最新情報はホームページで

ご覧ください！

<http://www.pref-f-svc.org>



がんばろう、日本。
がんばろう、東北。

がんばろう、福島。

次号は10月3日発行です